

グランド ジョラス

1989年7月18日～19日 西川克之

海外登山での最初の課題は航空券の手配だろう。今回私は大韓航空チューリッヒ往復を18万8000円で入手した。しかしアムステルダムで行きは2時間以上、帰りは6時間以上出発が遅れ、特に帰りはそのために帰国が1日遅れてしまった。

そういうわけでジャモニに着いたのは16日、日曜日の夕方6時半をすぎていた。まず観光協会で安ホテルをいくつか教えてもらい一番近くの「Boule de Neige」に行った。通されたのは天窓だけある屋根裏みたいな部屋だったが、丁度モンブランが見え悪くはなかった。しかし翌朝、もう一泊すると言って出かけて帰ってみると荷物は別の部屋に移されていた。この部屋が窓はない、水道はない、よくみるとドアには正しいにドクロのマークまでありBureauと書いてある。要するに客室ではないのである。建物への入口からして別なので、朝顔を洗いにいくにも正面の入口がしまっているの調理場の横の通用口から入ると私を客と知らぬ調理人がみとがめてジャポネがなんとかと言っている。これはまるで日陰者ではないか。これは地下だったら全く座敷牢だろう。ところがツェルマットでは1日だけだったが実際地下室に泊まったのだ。

火曜日の朝、山に行く前にいったんチェックアウトして、この不便な部屋が同じ料金では不道理だから交渉しようと考えていたら20FFr低い70FFrだった。その後も同じ部屋でペンションで泊まったので1泊2食付で135FFr(1FFr=22円台とすると約3000円)という安さだった。

さてグランドジョラス・ノーマルルートガイド、ピエリック・コリンはいかにも屋強そのものといった人物だった。月曜日の朝ガイド組合に頼み、夕方まで装備を確認し翌日の出発時間を決めた。マッターホルンは登ったときたら一般ルートだけかといわれてしまった。それにしてもグランドジョラスのガイド料金は高い。3100 FFr である。モンブランの1750 FFr と比べてもずいぶん差がある。そんなに難しいのであるうか。

7月18日 快晴

9時、ガイドの車でシャモニを出发しモンブラントンネルをぬけてイタリアに入り、フェレの谷のプランパンシュで車をとめた。ここから見るグランドジョラス南面は、力強く走る岩と雪とで武装されている、日本でいえば剣岳を一周り大きくしたような感じだ。

登山道に入ると、始めは穏やかな道だが樹林と草原をぬけると岩場となり鉄バシゴもある。ボカラツク小屋(グランドジョラス小屋)は氷河にはさまれた崖の脇に建っていてどこを登るのだろうかと思ったら、結局固定ギールを伝って岩場を登るのだった。

ガイドは1時間弱で一休み、また1時間しほいで休み、次には30分もしないで腰をおろしと、よく休むのではこと思ったが、翌日はやはりアルパイン・スタイル、小屋から頂上までノンストップだった。昼すぎに小屋に着いた。

小屋の位置ですぐに眼前に迫力のある光景が展開する。足もとにプランパンシュ氷河の舌端の崩落、その対岸に切り立った岩稜、下方にフェレの谷、クールマイユールの町、遠くにイタリアの山グランパラティソも見える。

天気もよく山のコンディションもよいようだ。しかし、今日登ってきた人にきくと頂上まで6~7時間、速い人で5時間、岩場の下りが難しいという。ガイドによれば5~6時間、

難かしいのかときくと、難しくないという。高差1400mで難しくなくてどうしてそんなに時間がかかるのが理解しがたい。長いとはいっているがそんなにはかからないだろうと思った。実際翌日は頂上まで5時間かからなかった。

今日の泊まり客は7人、ロシュフォール山稜を縦走してきたが風が強いので下山してきたイギリス人とスイス人、下から上がってきたイタリア人3人、そしてガイドと私である。皆明日最高点ウオーカーピークをめざす。小屋は小さく、奥行5m幅10m程で入口の戸をあけると即食堂、左が調理場で、右が寢室、定員は二十数名だろう。この厳しい山で小屋番は女の子2人である。夕方には寒い？ときかれて調理場のストーブの横にすわらせてくれた。

グランドジョラス南面



そういうわけが好きな所にねていいとどこかの小屋とは大きがいである。明日は2時出発だが、こちらの人は明日は朝早いのでから早くねて、という考え方はないらしくどこの小屋でも9時近くまで食堂で談笑しているのが普通の方だ。

7月19日 快晴

1時40分にガイドに起こされて目がさめ、出発は2時15分とるパーティーの中で最後だった。外に出ると月明かりが煌々としていた。まず固定ギールを伝って小屋の上のガシバに出、平坦な所を30分程歩いて氷河の端についてアイゼンを着ける。典型的なアルプス登山のパターンである。プランパンシュ-氷河の長い登りが続き、傾斜も次第にまして上部はかなり急である。途中イタリア人3人を運いぬいた。やがてプランパンシュ-氷河とグラウンドジョラス氷河を分ける最初の岩場にとりつく。この岩場はホールドモスタンスも十分にある。

ここを登りきると細い雪稜になり、アイスフォールを越えて、右に道路をとりグラウンドジョラス氷河の非常に急なトラバースになる。しかも最後は青氷になっている。これをすぎてウインパーピークに続く2番目の岩場にとりつく。固定ギールというより太さ3mm程のひもがあるが登りでは使わなかった。ここの岩は全体に凹凸が少く、最初の岩場より登りにくかった。この岩場を終えるとまた右にトラバースして雪面を登る。傾斜も緩くなり、背後にはモンブランと周囲の空が赤く染まり月がはっきり浮かぶ。い木ば屑になっている鉄面の東の端に達すると、東方にヴァリスアルプスの山々、モンテローザ、マッターホルン、グランコンバンが見える。

ここから左へ、最後の岩場というより雪と岩のミックスの尾根を上るとドーム状に雪の盛り上がった頂上部へぬけだた。先行パーティーの2人は一番右の最高点へまっすぐ向かったが、ガイドはその左の少しだけ低いこぶへ行っただ。ここはウインパーピーク

かときくと、ウインパーピークはあの向こうだという。それは当然でウインパーピークがこんなに近いはずがない。あそこが頂上だろうという、行きたいかときく。当然である。私はそのウォーカーピークの最高峰で行ったが、ガイドは行かず手前で写真を撮ってくれた。なにしろ北壁側はすっぱり氷おちているし、雪庇を警戒しているようだ。腹ばいになって首だけ出して北壁をのぞきこんで見たが、氷が登っているという光景がとうとうよく見られるはずもない。

すぐに下山開始、属で唯一度の休憩らしい休憩。ウインパーの岩場は固定ギールにつかまりながら慎重に下り、グランドジョラス氷河のトラバース、アイスフォール、雪稜を無事通過し、最後の岩場を下る。しかし下部で登りとは違う所にはいったようで、容易に降りられそうにもない。もう取付点も見えているので約30m懸垂下降でまっすぐ雪面におりた。あとは心配なく小屋に戻るだけである。帰りも小屋番の女の子が「チャオ」と見送りしてくれて、またくりかえすがどこかの小屋とは大違いである。

こうしてこの夏のアルプスもグランドジョラス登頂で幕を切っておとし、出だしは順調であったが。 (西川記)

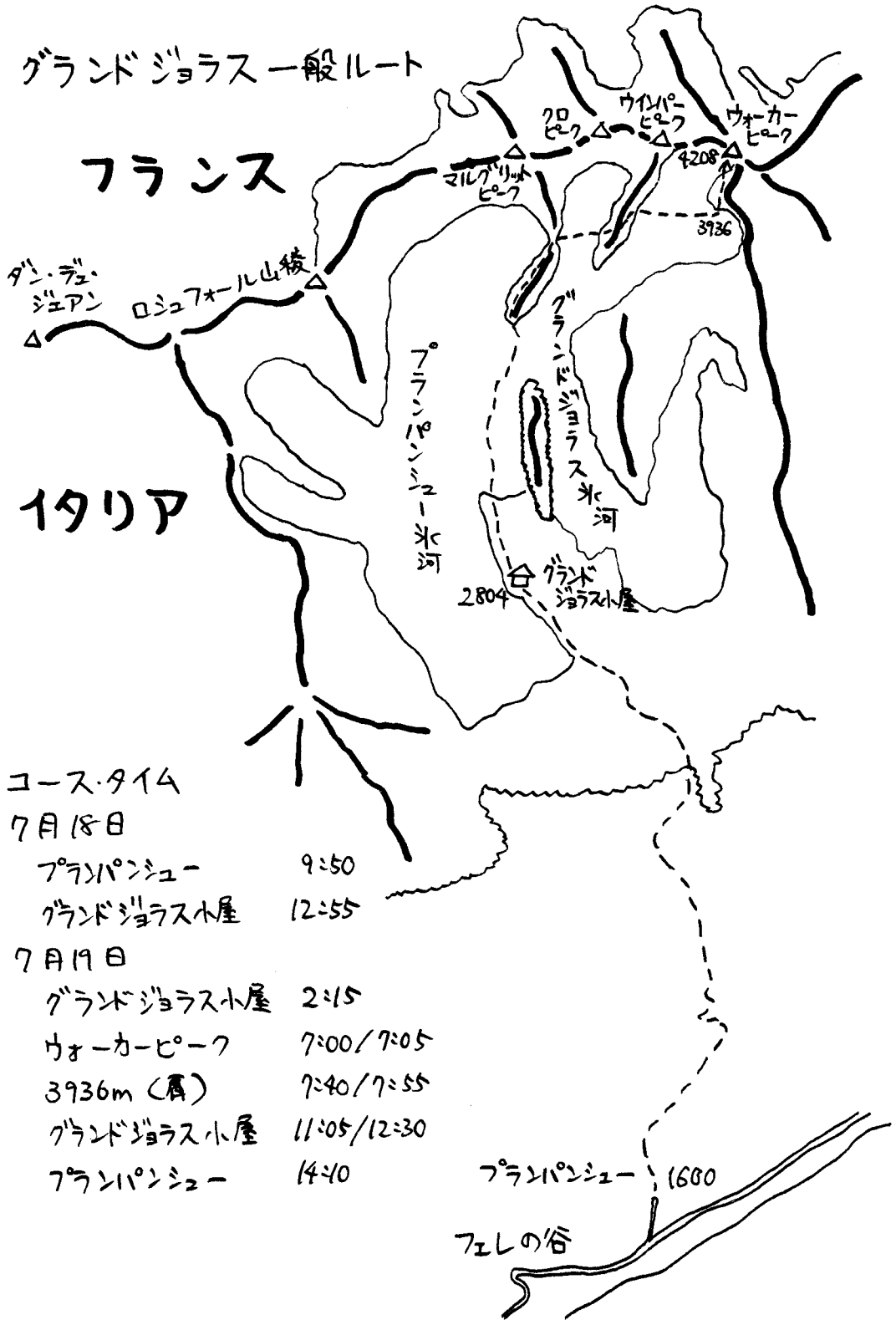
グランドジョラス頂上



グランドジョラス一般ルート

フランス

イタリア



コース・タイム

7月18日

フランスパンシュ 9:50

グランドジョラス小屋 12:55

7月19日

グランドジョラス小屋 2:15

ウォーカーピーク 7:00 / 7:05

3936m (真) 7:40 / 7:55

グランドジョラス小屋 11:05 / 12:30

フランスパンシュ 14:40

フランスパンシュ 1600

フェレの谷